

自己評価および外部評価結果結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者から具体的な心得を説明し実践できるよう定例会議で意見を求め話し合っている。	サンシャインあてらの基本理念は事業所・管理者・職員の共通の思いとして共有されている。又、ケアの心得(五項目)は職員の心構えとして実践されている。	基本理念とグループホームとしての理念を定期的に見直していく事も重要と思います。中間期などに基本理念・事業所理念等を職員も参画して見直していく事を期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の季節を通してお祭りの参加と施設内の畑作りを時期ごとに通じて交流している。	事業所として地域の交流・連携を積極的に進めている。広報誌「サンシャインあてら」を発行し、隣組回覧等へ配布をしている。地域は好意的に協力・支援を得られ畑の耕作は利用者に好評で有った。	畑耕作の継続と、地域行事への参加を今以上に進めて頂く事に期待します。広報誌に地域の方から投稿頂く事も地域との交流推進になるかと思われます。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1年目であり地域の接点を作ることに心がけている。施設イベントの参加をして頂き利用者で理解を深めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所より2ヶ月に1回の会議で利用者の生活状況、サービスの実際等を報告し意見を頂いている。	運営推進会議への出席も良く、九〇分程度の時間で開催されている。会議録は全職員に報告され改善に向けて活用されている。	運営推進会議が形骸化されない様、グループホームの取り組み・認知症のみならず介護の情報・旬な話題を提供しながら、会議の推進・活用に期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進協議会の委員をお願いし意見を頂いている。又、施設内職員研修を依頼し実施した。	大桑村・木曾広域連合の行政関係者と連携し支援を受けている。	行政関係機関とのコミュニケーションや協力関係の構築には、継続的な報告・連絡・相談が大切だと思います。関係機関との連携をさらに推し進めて頂く事に期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体職員会やミーティング等で周知し厳守に取り組んでいる。	開設以来1年間、身体拘束の事例はない。玄関の施錠は昼間は行っていない。	理性的で科学的な対応を心掛けて下さい。又、継続的な研修と家族との状況認識の共有を重視して、組織的なケアの対応を実践頂く事に期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は徹底している。厳守に取り組むようつとめている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解はまだ十分ではない。課題として取り組みます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	看取りについては当事業者の考え、医療連携体制について説明し、利用者、家族の考えを聞いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約を結ぶ時、苦情窓口について説明をさせていただいている。	アンケート結果から、コミュニケーションは良好と判断します。利用者・家族の満足度は高いものと推測します。	今後家族会の設立など進めて頂くと共に、利用者・家族からの意見等反映し易い環境を整えて頂く事を期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会、ミーティング等で聴く機会を設け前向きに検討している。	定期会議・スタッフ会議を月に1回以上、ミーティングを毎日30分～40分の時間で開催している。職員は自由に意見を出しやすい雰囲気であると話してくれた。	伝達方法として上司から、全体から伝える等適切に使い分けると共に、協力体制等整えて職員がやりがいを感じるよう意見の反映を構築頂く事に期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護経験のない職員について、やりがいのもてる環境を整備している。まだ1年目であるが2年目以降は職員個々の勤務状況を的確に評価していく。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験の有無を踏まえて研修を進めている。まず介護にはじめて取り組んでいる職員を重点としている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の運営委員を務めている事を通じて情報の支援や交流を深めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用者や家族の思いを受け止め安心していただけるよう関係作りは大切な事だと努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の景観、環境を理解していただけるよう見学に来ていただく。希望等を聴き家族とも関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	共同生活で穏やかに過ごしていただけるのか見極めに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共同し関係を築いている。家族として人生の先輩として。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携し支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気楽に訪問していただいている。馴染みの場所に出向いている。	家族のグループホームへの訪問は行きやすく、長居する家族も居られるとアンケートにも記述されている。利用者は馴染みの美容院・行きつけの店などへの訪問を楽しみにされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間の関係を大切に生活していただけるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談等支援していく事を伝えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングや日々の生活の中で把握し本人と家族からも情報を得ている。	基本情報・援助計画・ミーティング・日々の暮らしの様子から、思いや意向を把握するように努めている。	今後ステップアップしてゆく為に利用者の意向・思いを把握・全職員がスムーズに把握できるツールを一考頂く事を望みます。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、関係者と面談し聞き取りを行っている。又サービス利用時にはその場所に出向き本人の様子や情報を得ている。利用開始後も把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で周知し把握に努めて連携を取っている。又関わりを持っていただいている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	本人・家族等と話し合いながら介護計画を作成されている。	P-D-Cサイクルを活用して介護計画・支援方法を確認なものにする為に面接・分析・評価等と進めて頂く事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、連絡記録を職員間で共有周知し活かせるよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化に取り組み個別ケアに努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント、納涼会等には地域住民の支援をいただき参加し楽しんでいる。職員も楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診サービスに努め、かかりつけ医と連携と関係を築いている。定期受診以外の特変時にも主治医の指示をいただきながら連携を取っている。	協力医療機関が充実している。其の時々々の状況に合わせて医録機関との連携に努めている。家族からの安心を得られている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職に伝え主治医の指示や受診を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を重ね様子を聞く、伝える、情報交換に努め又電話での連絡を取り合いこれらの情報を家族、主治医と連携を取っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用申込、入所契約時に本人や家族と話し合い、主治医の指示連携に努めている。地域の関係者に支援いただいているが今後はさらに濃いものになりたい。	家族との事前相談による意志の尊重をすると共に、家族とグループホーム及び関係機関との連携による対応を進めている。	其の時々々の対応が必須と思われま す。其の時までの平常の対応が重要 と考えます。グループホーム側の押し 付けや思い込みを排して対応して頂く 事に期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が実践力を身につけるため研修を実施しているが今後は定期的に訓練を実施して行きたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を消防署、地域住民の協力で年間2回実施した。	法令と計画に基づき必要な訓練を実施している。地域との協力も得られている。開設1年と新しく、防災・通報設備についても充実している。	防火・防災について、ハード・ソフト両面の確認と訓練を不断に行う事により、安全を確保・維持して行く事、大桑村消防団の支援を頂くよう連携を維持して行く事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	土地柄もある中で尊重し親しみの言葉かけを心がけて対応している。	地縁を活かして地区の風習・言葉を大切に利用者に接している。職員は「ケアの心得」から、年長者へ敬意を持って対応に努めている。	利用者への言葉かけの部分で、子供扱いされている様な意見も寄せられている。「ケアの心得」を全職員で再度確認するなど言葉かけの方法等検討いただく事を望みます。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り自己決定できるよう支援している。家族へ電話、散歩は本人の希望にそって支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは出来ているが個別ケアを心がけて支援している。散歩支援は本人の希望時間で。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に用意できるよう常日頃心がけている。必要品の買い物同行支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に出かける。調理、盛り付け、片づけ等一緒に係わっている。現病を把握し、糖分、塩分の控えた食事を利用者と職員が楽しんで食事をしている。	食事の用意や後片付けを利用者(希望者)・職員で行っている。	調理・片付け等、自分で参加出来ない方も参加できるように企画して取り組んで頂く事を期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭に近い環境を保ちながら、その人に合った形態を提供支援している。誕生日には希望を聞いて皆で祝い会食している。摂取量の記録の徹底。お茶の時間以外でも水分(好みの飲み物)は自由に摂っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	茶がらを煮だした液を常に用意し、食後、就寝前、外出後等口腔ケアへの実施、声掛けを行っている。又本人の状態に応じて職員介助。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を確認把握し自立に向けての支援を心がけている。	環境・声掛け等支援する事により、入所時より改善された方もいた。	現在の状況を維持する為に、利用者の排泄サイクルを確認して行く事が重要だと思います。今後も維持する為の取り組みを継続する事に期待します。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食材を工夫している。(手作りヨーグルト、豆乳、野菜を多く取り入れている。)協力医に状態を説明し指示を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を大切に気持ちよく入浴していただけるよう支援している。朝風呂、夕飯後、地域の温泉入浴の支援をしている。	利用者の希望で対応している。地域で引湯した温泉も近くに有り、入浴出来るよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて休んでいただけるよう支援している。ソファで休んだり畳で横になれる環境にしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人にその都度手渡し確認している。本人の状態特変時には協力医に連絡し指示を受けている。薬の説明書を個別ファイルに綴じ何時でも確認できるようにしている。薬の変更があった時は申し送りを徹底している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状態に合わせて役割、楽しみを支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して季節が感じられるよう紅葉狩り、秋まつり、お祭り等の外出支援している。日常的にも本人の希望に応じて散歩、買い物、ドライブ等外出支援してしている。戸外に出る事の支援はしている。	利用者の希望に応じて外出支援がされている。季節に応じて外出行事を企画するなどされ、利用者も心待ちしている様である。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて支援している。預かっている時は支払う時、本人に関わってもらおう等支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の気持ちを尊重し支援している。家族等にも理解していただいている。偶数日は家族から奇数日は本人が電話をかけている。荷物が届いた時などお礼の電話をかけている。携帯電話所持している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかな灯り、リビングにソファがあり好きな飲み物を一緒に飲む。季節の草花を生ける。菖蒲湯や四季折々の土地の食べ物等で季節感をあらわしている。	清潔で明るく居心地が良さそうな居室で、室温も各部屋でコントロールできる様になっていた。照明も適切と思われる。空気洗浄機も設置され稼働していた。広々とした風景も空間作りに加味されているように感じた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ラウンジの畳、リビングにソファがあり自由なスペースを確保し自由に団楽している。居室で気の合った仲間同士団楽している。好きな時に自由にお茶をしている。共用の場は皆(利用者)の家だからと伝えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で居心地よく過ごしていただけるよう家族等をお願いしている。本人と家族は自由に部屋作りをしている。	利用者それぞれが室内のレイアウトを楽しんでいるように感じた。思いのある品々に囲まれ落ち着いた雰囲気が漂っていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で情報交換しながらその人らしく生活が送れるよう支援している。職員がお手伝いする気持ちの関係づくりを心がけている。		